

Title	デュルケム宗教生活の原初形態(古野清人譯, 刀江書院發行)
Sub Title	
Author	松本, 信廣(Matsumoto, Nobuhiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1931
Jtitle	史学 Vol.10, No.1 (1931. 3) ,p.147- 147
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19310300-0147

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

デュルケム 宗教生活の原初形態 (古野清人譯) (刀江書院發行)

デュルケムの *Les formes élémentaires de la vie religieuse, le système totémique en Australie* が宗教學の名著として今日殆どラシックの觀あるのは何人も異論なき所であらう。かのデュルケムと立場をここにせるアメリカの民族學者たさへばロウキイの如きも本書を以てもし「辯證的天才のみをもつて實驗科學の分野に於て大業績を成就なし得るませば本書はその目標たるべきもの」と稱讚してをる。デュルケム去つて後もその朋友弟子達の努力により彼の思想はますますその價值を認識され、その方法は益々擴大して利用されつゝあり、所謂「社會學派」は、今日フランス學界において鬱然たる一大勢力を形成しつゝある。デュルケムの著作中その「社會的方法論」は數年前田邊壽利氏により邦譯されたが、此度同氏の最大傑作たる本書が畏友古野清人氏により邦譯され、上巻が發兌せられしことは近來の一快事である。譯者は東大宗教學科出身の新進氣鋭の學徒、難解をもつて音に聞ゆるデュルケムの文章が、少しも滯滞する所なく明快暢達なる邦文に移植されたことは我學界のため欣喜に堪へざる所である。一體明治年代の我國未開宗教研究は英米學者の影響を受け、アニミズム、ナチュリズム一天張りにて今日に於てなほその痕跡が消えきらぬ。知名なる學者にして今日もなほ日本神道の解釋に對し、アストン、チェンパーレンの亞流に過ぎざるもの多きを見受けるのは遺憾である。本書の初頭におけるアニミズム、ナチュリズムに對する批判宗教の基本的性質として聖と凡俗との對立の指摘の如き我國民族學關

係學徒の是非とも常識としてわきまふべき卓説である。よしデュルケムの社會至上説に異論ありとしても次に來るべき者は必ずやデュルケム學說の洗禮を受け、之を経過したものであらう。此偉大なる大著を我學界に提供された古野君の勞苦に深く感謝しひろく江湖に一讀を推薦する。(松本信廣)

近代日支鮮關係の研究

(田保橋潔著) (京城帝國大學印行)

本書は京城帝國大學教授田保橋潔氏が京城大學より公にされたもので、その主眼とするところは、日支兩國の官公文書によつて、明治十八年天津條約より明治二十七年日支開戦に至る日支鮮關係を考察された點にある。而して本書の一特色ともいふべきものは、文中多くの日支兩國の公文書が引用されてゐる點である。

次に本書の目次を擧ぐることにする。

第一章、天津條約後の日鮮關係 一、天津條約論 二、金朴事件(上) 三、金朴事件(下) 第二章、東學黨變亂及日支の干渉 一、東學道の沿革、東學黨變亂、三、支那の干渉、四、日本の出兵第三章、朝鮮を中心としたる日支交渉、第四章、朝鮮國內政改革問題 一、日支共同改革の失敗、二、日本の單獨改革要求、三、內政改革と日支勢力の消長、第五章、朝鮮國政府改造、一、日鮮交渉の停頓、二、大院君の第三次執政、第六章、列強の干渉、一、ロシアの干渉、二、英米の干渉、第七章、日支開戦等の項目に互り、盛んに健筆をふるはれてゐる。

之を要するに本篇は一の未定稿と著者は云はるゝも、近代日支